

製品名: RCC2 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab16980

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	56kDa

抗原情報

遺伝子名	RCC2
別名	RCC2; KIAA1470; TD60; Protein RCC2; RCC1-like protein TD-60; Telophase disk protein of 60 kDa
遺伝子 ID	55920.0
SwissProt ID	Q9P258
免疫原	抗血清はヒト RCC2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 473-522

背景

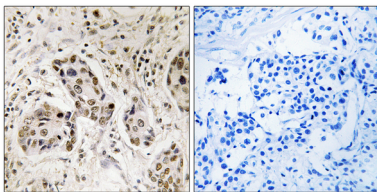
機能: 有糸分裂および細胞質分裂の完了に必要。低分子 GTPase RAC1 のグアニンヌクレオチド交換因子として機能する可能性がある

る。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: 7つの RCC1 リピートを含む。細胞内局在: G2 期に核内に出現し、前期には染色体のセントロメア領域に集中する。後期には有糸分裂紡錘体の中間領域に再分布する。ここで、タンパク質は皮質から皮質までの赤道径全体を覆っている。サブユニット: ヌクレオチドを含まない RAC1 に優先的に結合し、微小管と相互作用する。機能: 有糸分裂および細胞質分裂の完了に必要。小型 GTPase RAC1 のグアニンヌクレオチド交換因子として機能する可能性がある。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性: 7つの RCC1 リピートを含む。細胞内局在: G2 期に核内に出現し、前期には染色体のセントロメア内側領域に集中する。後期には有糸分裂紡錘体の中間領域に再分布する。ここで、タンパク質は皮質から皮質までの赤道径全体を覆う。サブユニット: ヌクレオチドを含まない RAC1 に優先的に結合し、微小管と相互作用する。、

研究分野

紡錘体; 細胞生物学; 細胞周期; 細胞分裂; 細胞質分裂

画像データ



RCC2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。